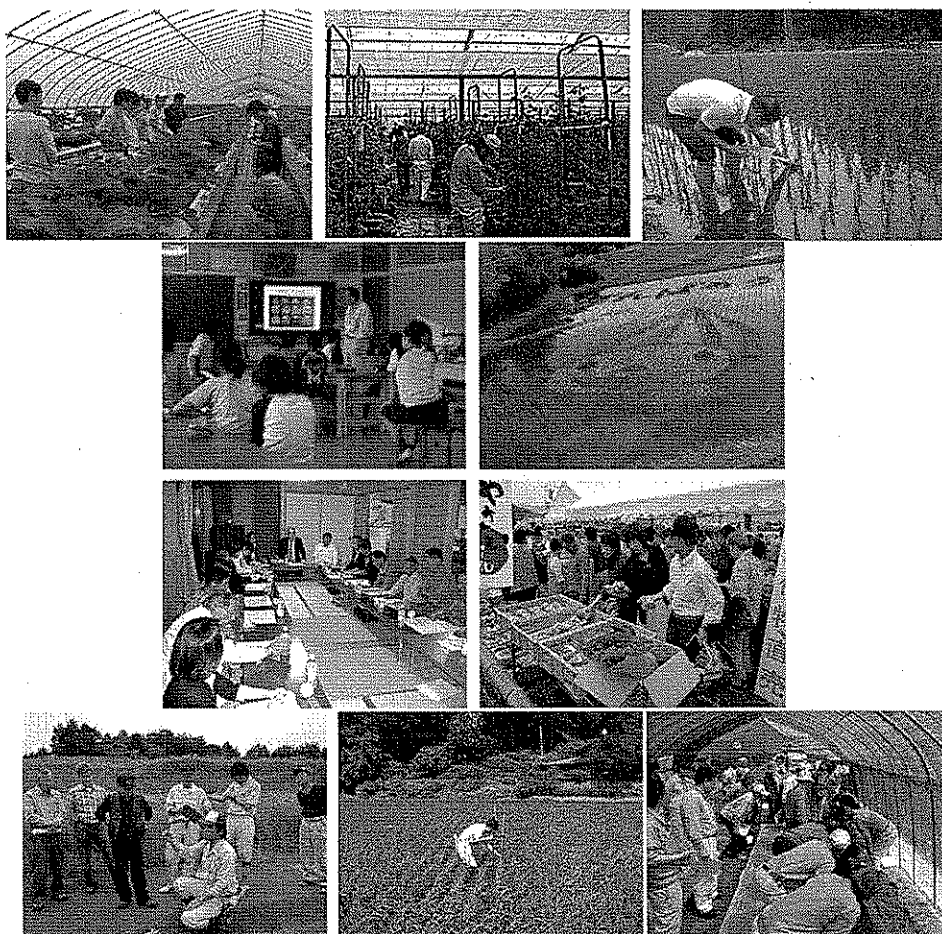

6月の普及活動状況

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～



岐阜県農政部農業経営課

＝ 目 次 ＝

ダイジェスト版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

西濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

揖斐農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

中濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

郡上農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

可茂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

東濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

恵那農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

下呂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

飛騨農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

< 6月普及活動状況ダイジェスト版 >

新たな産地づくりの推進 ～活力ある新産地づくり～

中濃農林 ■さといも 円空さといも生産振興会議

6月1日と14日に、円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの産地拡大を目指し、産地育成計画等について検討することとしている。課題解決に早くから取り組むため、今後とも半月に1回程度の割合で開催していく。

郡上農林 ■春まちにんじん ひるがのファイト倶楽部総会

6月15日に高鷲地内の牧華で平成22年度ひるがのファイト倶楽部の総会が行われた。にんじんジュースと飛騨りんごと組み合わせたキャロリングという新たなブランド商品を開発して6次産業に向けた取組を強化していくことになった。

また、秋にんじんと県内の柿やみかんを活用したミックスジュースの開発も検討していくことになった。

飛騨美濃の農産物を利用した商品開発を強化し、収益の高いビジネスモデルを組合では構築していく計画である。



可茂農林 ■青ねぎ 病害防除実証ほ設置と土壌水分測定

青ねぎ部会は、周年生産に向けての課題の一つである夏場の軟腐病について、実証ほを設置し対策を検討している。農業普及課は、土壌が過湿になると当病害が発生しやすいことから、各地域の土壌水分を測定しその結果をもとに効果的な対策を進めている。



【ネギほ場土壌水分測定】

恵那農林 ■クリ クリ新規栽培者のためのチャレンジ塾はじまる！

東美濃栗振興協議会とJA東美濃の主催により「第1回クリ新規栽培チャレンジ塾」を6月12日に中山間農業研究所中津川支所で開催した。

中津川市、恵那市などから新たにクリの栽培を始めた方々20名の出席があり、産地拡大に向けた東美濃クリ産地の取組などの室内講義と、クリ樹園地で初夏のクリ栽培管理等の講義を行った。

今年度は6月から翌年2月までの間に7回開催し、収穫・選果選別、剪定技術などのクリ栽培農家での研修や、年間5回以上の出席者に修了証の交付を行うなど新たな取組を予定している。



【栽培管理等を説明する普及指導員】

本塾は、東美濃クリ産地の拡大を図るため、関係機関が一丸となって進めているプロジェクト活動の一環で、今年で5年度目の開催。この取組を契機に新規栽培者70名程度が誕生し、30ha程度のクリが新植され、東美濃管内のクリ栽培面積は着実に増えつつある。

下呂農林 ■龍の瞳 第1回龍の瞳戦略会議開催

6月23日に平成23年度第1回龍の瞳地域活性化戦略会議が下呂市内で開催された。

生産者側からは各生産組合の代表者が、販売者側からは(資)龍の瞳が出席し、農業普及課の担当者も交えて、平成22年産販売状況、平成23年度の計画等について協議した。

特に、県下15地区で現在の生産状況を確認するための巡回日程の確認、より高い品質のものをより多く生産できる栽培技術といった内容について検討した。



【龍の瞳戦略会議(萩原町)】

農業普及課では、適切な穂肥の時期、量などの情報を7月の穂肥前の時期に現地研修会を通じて各農家に伝えることで、より高い品質の龍の瞳をより多く販売できるよう推進していく。

また、「龍の瞳」を今年度から3ヵ年の計画で実施する「活力ある新産地づくり支援事業」として位置づけ、全面的に取り組んでいく。

飛騨農林 ■宿讎かぼちゃ 現地研修会を開催!

今年度の宿讎かぼちゃ研究会員は190名で前年比95%と減少したが、新たに8名が会員となった。

6月13日(丹生川町)、17日(久々野町)、20日(河合町)に宿讎かぼちゃ研究会主催の現地研修会が開催され、延べ70名が参加した。

新規栽培者を中心に定植後の管理(摘芯、整枝)について農業普及課から説明し、宿讎かぼちゃの大敵である梅雨を乗り切るための病害虫防除の徹底や、農薬の安全使用についても注意を呼び掛けた。



【説明を聞く新規栽培者】

主要農産物の生産振興 ～売れる農産物づくりと産地の強化～

西濃農林 ■バラ 養液分析とほ場巡回開催

農業普及課では、土壌養液の分析診断を月に1回実施している。6月については、農業技術センターの加藤部長も出席して、生産者全員のハウス巡回を実施した。以前より手が入っていない部分も見受けられ、アンモニア態窒素を活用したpH管理など、基本管理の徹底を指導した。



【圃場巡回状況】

担い手の育成確保～明日の農業を担う新規就農者と地域農業を守る多様な担い手育成～

岐阜農林 (いちご研修生3名が6月1日から就農開始)

J A全農岐阜のいちご研修施設を卒業した3名が、6月1日から就農(岐阜市で2名、各務原で1名)した。就農者はJ A等と協議し、栽培施設の建設や育苗管理を行っている。

農業普及課では、新規就農者支援として、県農業経営課と農業技術センターの協力を得て、新規就農者育苗指導巡回を行い、適正な育苗についての指導を行った。



【合同育苗ほ巡回の様子】

地域の動き等 ～魅力ある農村づくり～

揖斐農林 集落営農サポーターの活動を支援

今年度、揖斐川町坂内地区で集落営農担い手発掘サポート事業を実施することになり、揖斐川町担い手協議会が集落営農サポーターを雇用し、6月から坂内地区に派遣している。

今後の営農支援に向けて、地元の農業者の下で農産物の栽培管理を学ぶとともに、農作業の補助を行うこととした。また、耕作放棄地の状況や地域住民の意向調査などを実施し、将来の営農について検討していきたいと考えている。

現在農業普及課では、定期的な水稻の生育調査などを行い、実践的な農業技術や知識の修得に向けた支援を行っている。



【生育調査を行うサポーター】

東濃農林 (学校給食への農産物納入)

学校給食への地元農産物納入は、以前から取り組まれている瑞浪市に加え、土岐市、多治見市でも各市教育委員会との連携のもと、その仕組みが整った。

農業普及課では、今年度は、出荷組織運営について支援し、計画的な出荷に向けての栽培、技術の向上等支援を行ってゆく。

～農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年6月30日現在

今月の重点活動

(いちご研修生3名が6月1日から就農開始)

J A全農岐阜のいちご研修施設を卒業した3名が、6月1日から就農(岐阜市で2名、各務原で1名)した。就農者はJ A等と協議し、栽培施設の建設や育苗管理を行っている。

農業普及課では、新規就農者支援として、県農業経営課と農業技術センターの協力を得て、新規就農者育苗指導巡回を行い、適正な育苗管理指導を行った。



【合同育苗ほ巡回の様子】

主要農作物の生産振興

■ 水稲 (鉄コーティング湛水直播栽培 播種開始)

瑞穂市・本巣市では、6月3日から鉄湛直の播種が始まり指導を行った。

(栽培面積 4.5ha 栽培者 5名 4品種 (ハツシモSL・あさひの夢・ひとめぼれ・ミツヒカリ))

■ いちご

(平成22年産いちご出荷終了)

平成22年産いちご出荷が、6月上旬をもって終了した。冬期は低温で推移したが天候がよく日照時間が確保できたため、例年と比べ収量が大幅に向上した。特に3月中旬以降の収穫量が多く、一時期、出荷量は前年比150%以上となった。

(いちごの加工開発) (J Aぎふ岐阜市いちご部会青年部活動)

J Aぎふ岐阜市いちご部会青年部では、岐阜商工会との連携でいちごの加工開発を行っている。現在、いちごパウダーと(1次加工)、冷凍いちご(個人と業者用)を中心に開発を進めている。

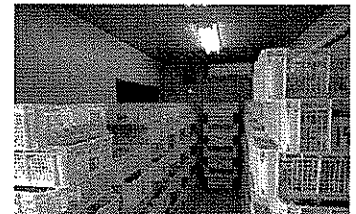
また、商工会の行事等に区青年部として参加し、富山との交流や岐阜市の商工側(長良川おんぱく:旅館組合)との連携を進めている。

■ たまねぎ (業務加工用たまねぎの収穫)

各務原市稲羽西地区にて、業務加工用のたまねぎの収穫が6月16日に行われた。農家、全農岐阜、J Aぎふ、農産園芸課、機械メーカー(クボタ)が参集し、一部の作業(コンテナ入れ)を機械利用して実施した。収穫されたたまねぎは、J Aぎふ各務原集荷予冷施設にて乾燥後、規格品を契約先(キューピー)の指定容器に入れ替えて7月上旬に出荷予定している。

■ にんにく (収穫行われる)

岐阜市、本巣市、山県市の各ほ場巡回において収穫期を検討して6月上中旬に収穫作業が行われた。病害球は少なめであったが、雨天で作業が遅れたための裂皮がみられた。収穫したにんにくは約3週間乾燥庫で乾燥し、市場や加工業者に出荷される。



【乾燥室内に積み上げられたニンニク】

■ ブロッコリー (生産販売の方向性を検討)

J A・全農担当者との第1回目の生産販売会議が6月8日に行われた。平成22年の一番の問題は低温と降雪により1月の出荷量が少なかったことであった。そこで、その対策として品種選定や地域リレーについて検討がなされた。今後、地域ごとの品種構成や資材について検討を重ねてゆく。

■まくわうり (栽培開始)

栽培研究会では5月28日に定植を実施した。台風2号の影響から一部、補植した。本年も真桑小学校といづみ北幼稚園における栽培を支援している。

■かき 生育遅れて着果懸念

富有の満開が5月30日と平年より1週間以上遅れている状況であり、開花期の天候不順から受粉への影響も心配されている。

また、5月末からの梅雨入りと台風の影響による降雨及び低温のため、果実へタ部等に灰色かび病が多発した。特に早生品種に被害が多い。被害果は生理落果終了後の見直し摘果で対応する予定。

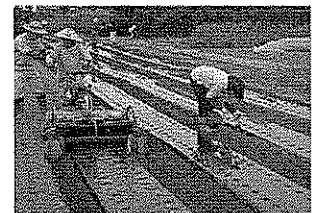
担い手の育成・確保

■女性農業経営アドバイザー (第1回産消交流会の開催)

6月21日「ぎふの野菜を知ろう」をテーマに、岐阜地域食生活改善協議会リーダー16名とアドバイザー会員16名との産消交流会を開催した。地産地消の大切さや「ぎふクリーン農業生産登録」等の取組について紹介し、意見交換をおこなった。農業普及課では、交流会実施に向け関係機関との連携、内容等について支援をした。

■集落営農組織・営農組合 (えだまめ栽培第1回目の播種終了)

羽島市桑原土地営農組合が今年からえだまめの栽培に取り組むことが決まり、6月9日に行われた最初の播種作業を支援した。今後、天気を見ながら計画的に播種作業が行われる予定である。



【写真 えだまめの播種作業】

■農業体験学習指導 (羽島市・山県市で農業体験学習等への支援)

小中学生の体験学習(食農教育)が開催され、JA、農業普及課が支援を行った。

〔羽島市 6月7日、9日、10日 田植え体験(小学生・一部親も参加)〕

〔山県市 6月14日 イネの無農薬栽培の勉強〕

〔各務原市 6月18日 田植え体験(小学生と家族)〕

また、6月19日には、羽島市でアイガモ稲作体験イベントが行われ、県内外から消費者約200名が参加し、アイガモ田で田植えの体験を行った。今年は研究開発中の水田除草ロボット(アイガモロボット)のデモンストレーションもあり、参加者の関を集めた。

地域の動き等

■瑞穂市学校給食用野菜生産グループ (たまねぎ・じゃがいも出荷中)

5月25日にじゃがいも・たまねぎ目揃え会を実施。玉葱は豊作傾向のため、予定を超えて10月まで出荷する計画とした。(農家の意向により市場出荷は断念)

今後の予定 7月上旬 さといもダツかき現地研修

8月上旬～秋冬野菜栽培研修

8月下旬 徳田ねぎ現地視察

西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年6月30日現在

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー） **大垣部会の総会開催**

5月23日に大垣部会の総会が行われ、農業普及課から、圃場選定と土壌診断の必要性について説明した。また、JAにしみのブロッコリー生産協議会の役員総会が6月24日に開催され、23年度産の産地育成計画について確認を行った。

農業普及課でブロッコリー栽培マニュアルを作成した。今後、関係機関や生産者に配布、活用していく。

■水稲 **水稲の生育状況**

管内全域で田植えが6月中旬に概ね終了した。

生育は5月の低温傾向に加え、梅雨入りが5月27日と例年になく早く、その後の天候の不安定による日照不足と重なり、生育の遅れ、分けつの不足、葉が軟弱徒長気味になるなどの影響が全般に見られる。

病害虫防除所のBLASTAMに基づき、特に箱施薬にいもち剤が入っていない地域を中心にいもち病に対する注意喚起を行っている。

青空教室については各地で行われているが、JAにしみの営農指導員やアドバイザーの養成を目的に、普及指導員はサポートを基本として支援している。

■小麦 **小麦の収穫状況**

小麦の収穫はイワイノダイチで6月7日、農林61号で6月10日から始まった。今年は梅雨入りが5月27日と早く、天候も不安定で、雨間をぬって収穫することとなった。イワイノダイチは海津市で6月14日、不破地域で6月22日に終了し、生麦重で約2,500tを受け入れた。また、農林61号は各カントリーとも概ね6月26日には荷受けが終了し、同3,800tが受け入れられた。

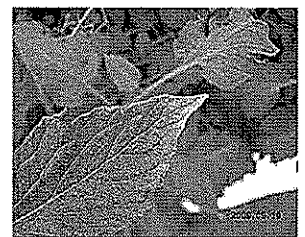
品質は全般に小粒で品質的にも良くない。また、倒伏や凍霜害を受けたほ場では未熟粒の混入、降雨後の刈り取りほ場ではしわ粒や奇形粒、一部にかび粒や穂発芽粒が見られた。

■トマト **トマトの葉先枯れ症対策**

5月下旬までの累計実績（3ヶ年対比）は数量104%、単価88%、金額91%であった。

「トマト葉先枯れ症対策」が今年度より試験課題となり、6月16日に農業技術センターとほ場を巡回し、果実と茎の採取を行った。

葉かび病抵抗性品種「CF桃太郎J」で導入初年度から葉かび病がみられたため、6月3日に同センターと薬剤耐性菌の調査をするため、病害葉のサンプリングを行った。



トマト葉先枯れ症は灰色かび病につながる

■きゅうり **病害虫対策&GAP実践支援**

6月上旬現在（前年比）出荷数量：98% 金額：92% 単価：94%である。共販は6月末で終了予定である。

農業普及課では、巡回及び出荷場への貼り紙で、栽培終了時には蒸し込みを徹底し、施設外へ害虫を逃がさないよう指導を行った。また、近年、発生が増加している黄化えそ病対策の検討のため、殺虫剤の使用状況の調査を全農家対象に行っている。

また、きゅうり部会では、適正な農薬保管と異物混入対策について、重点的に現地調査、点検項目の見直しを行っており、その支援をしている。

■いちご **生育の状況**

いちごは、苗のポット受けの真っ最中である。親株からのランナーの発生も概ね順調である。台風風の風で揉まれたことから、海津市内では炭そ病の初発生を確認した。大垣市、輪之内町、神戸町については、親株へのアブラムシ類の寄生が増えている。農業普及課では、炭そ病を始めとする防除の徹底、草勢に合わせた適切な灌水管理、追肥の実施、株の整理などを指導している。

■えだまめ **えだまめ出荷はじまる**

安八町牧園芸組合えだまめ部会の目揃会が6月14日に開催された。5～6月がやや低温傾向で推移していることもあり、収穫始めがやや遅くなっている。莢つきは昨年より良い状態である。

海津市でも6月28日に目揃会を開催予定である。また、平原営農組合での試験栽培は、6月12日に播種、6月15日にうね立て作業を行った。

農業普及課からは今後の栽培管理と防除の徹底指導を行っている。

■その他、新品目への取組 **海津市、養老町で露地野菜の作付け推進**

養老町の寺町営農組合では6月収穫の春キャベツを筆頭にスイートコーンなどの作付けを行っている。これを受けて、養老町内の複数の営農組合を対象にキャベツやタマネギの推進について、6月21日に関係機関で打ち合わせを行った。

また、海津市でも6月29日に露地野菜を作っても良いと言う営農組合の代表者を集めて、タマネギの作付けについて検討会を行った。

■なし **盆前生産に向けた指導を実施**

着果量は良好だが、大きさや果形の乱れが目立つ。

農業普及課では、発生予察による防除指導や盆前生産に向けた栽培指導を行った。また、農業経営課技術支援担当及び農業技術センター環境部と連携し、白紋羽病対策のための温湯消毒の実証展示試験を行った。

■茶 **一番茶終了、ほ場管理作業始まる**

春先の低温と小雨により収穫は10日程度遅れた。価格低迷が続いており二番茶の収穫は行わない予定。農業普及課では病害虫防除所と連携し「クワシロカイガラムシ」および「チャトゲコナジラミ」の発生予察を行った。防除方法を見直したほ場で、一番茶の収量が多かったとの意見があった。

平成23年一番茶出荷量：7,620t（前年比121%）、単価：1,499円/kg（前年比96%）

■バラ **養液分析とほ場巡回開催**

農業普及課では、土壌養液の分析診断を月に1回実施している。6月については、農業技術センターの加藤部長も出席して、生産者全員のハウス巡回を実施した。以前より手が入っていない部分も見受けられ、アンモニア態窒素を活用したpH管理など、基本管理の徹底を指導した。



ほ場巡回状況

担い手の育成・確保

■指導農業士 **役員会での検討**

6月14日、役員会が開催され、支部活動の今年度事業について検討した。また、県では農業士の退任年齢切り上げが検討されているが、役員会では年齢の切り上げより、候補の掘り起こしを推進したいという意見が出された。

揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年6月30日現在

今月の重点活動

■ 揖斐の中山間地域活性化に取り組む

■ 集落営農サポーターの活動を支援

今年度、揖斐川町坂内地区で集落営農担い手発掘サポート事業を実施することになり、揖斐川町担い手協議会が集落営農サポーターを雇用し、6月から坂内地区に派遣している。

今後の営農支援に向けて、地元の農業者の下で農産物の栽培管理を学ぶとともに、農作業の補助を行うこととした。また、耕作放棄地の状況や地域住民の意向調査などを実施し、将来の営農について検討していきたいと考えている。

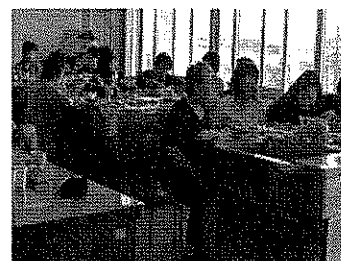
現在農業普及課では、定期的な水稻の生育調査などを行い、実践的な農業技術や知識の修得に向けた支援を行っている。



生育調査を行うサポーター

■ 揖斐地域特産品を使用した加工品の開発研修会を開催

農業普及課では、ふるさとのじまん農産物づくりで進めた「山菜作り」の一環として、揖斐郡内の農業婦人クラブや加工グループを対象に、よもぎや沢アザミ、春日豆などを使用した加工品開発を支援している。今回、昨年実施した講習会を踏まえ、各グループから加工品を持ち寄り、揖斐川町中央公民館において情報交換や相互の評価を行った。当日出品された15品は様々な評価を受け、今後の活動への刺激になったものと思われる。



試食による厳しい評価(6/8)

主要作物の生産振興

■ 水稻

■ ハツシモ採種ほ栽培研修会を開催

大野町のハツシモ採種ほにおいて、5月下旬と6月中旬に田植(8.6ha)が実施され、5月下旬植えについて6月28日に現地研修会を実施した。現在、分けつ盛期に入りつつあり生育は順調である。農業普及課では、合格種子100%を目指して今後の管理を行うよう支援した。

■ 小麦

■ イワイノダイチ収穫開始

6月12日から管内のイワイノダイチの収穫が開始された。今年は春先の低温で生育が遅れ、昨年より4日遅い荷受け開始となった。

3月下旬に凍霜害を受けた谷汲地区で、遅れ穂が多く発生したため、農業普及課では、圃場巡回により収穫時期を見極め、品質低下の防止に努めた。

また、池田町で設置した新品種「東海103号」「さとのそら」展示ほについて、6月10日に坪刈りを実施し、脱穀調整を行った。今後、調査データの取りまとめを行い、地域での普及性等について検討を行う。



■ いちご

■ いちご栽培研修会を開催

6月8日に大野町苺生産組合で研修会を開催し、土壌診断に基づく適正な管理及び当面の育苗管理について説明した。また、次年度には全農新規就農研修生が組合に加入する予定であり、農地確保について支援している。

今後、補助事業の活用も視野に入れ、ぎふクリーン農業の登録を推進する。

■ 柿

柿現地研修会を開催し、大玉化生産をめざす

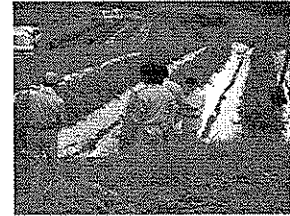
6月24日、大野町瀬古地区の柿生産者（10名）による現地研修会が行われ栽培技術指導について支援した。特に、カメムシやフジコナカイガラムシへの適期防除を徹底し、高品質な柿作りに向けた意識向上を図った。



■ 実バラ

坂内実バラ生産組合、栽培研修会を開催

6月24日、揖斐川町坂内地区において実バラ栽培研修会が開催され、農業普及課では、農業技術センター、農業経営課技術支援担当とともに支援した。現地ほ場を巡回した後、品質の良い実バラ生産を目指した栽培管理について室内研修を行った。来月は、先進地である飛騨への視察を計画しており、引き続き支援していく。現地ほ場巡回の様子



■ 小菊

6月咲の出荷始まる

6月5日から揖斐川町久瀬地区で栽培されている小菊の出荷が始まった。初出荷日は例年並みであったが、春先の低温の影響で生育が遅れたため、出荷量が例年に比べて少なく推移したが、6月23日の目揃会頃から回復しつつある。

新規栽培者の加入もあり、出荷本番に向けて意欲が高まっている。



担い手の育成・確保

■ 4Hクラブ

共同農場にてサツマイモの定植を実施

揖斐地区農業後継者クラブでは、共同農場での野菜栽培を通して会員間の交流を図っている。今年は6月16日にクラブ員協力の下、約400本のサツマイモ苗の定植が行われた。

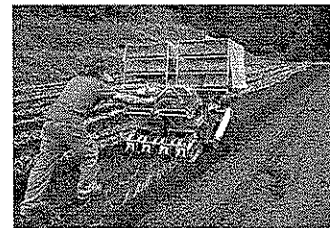
収穫したサツマイモは11月開催の「いび川マラソン」において直売を行う予定であり、農業普及課としても支援を行っていく。

■ 新規就農者

認定就農者の葉ネギ栽培を支援

揖斐川町坂内地区で認定就農者となったO氏の葉ネギ苗の植え付け作業が行われた。粘土質のほ場で苗植付機の操作が困難なところがあり、集落営農サポーターの協力も得て支援した。

O氏は、今後坂内地区での規模拡大を計画しており、耕作放棄地対策とあわせて検討していきたい。



地域の動き等

■ 池田町

「梅狩り体験」で産地PR

6月4日に池田町梅組合主催による梅狩り体験が行われた。池田町の梅をPRするため2年前から行われているもので、定員50名のところ応募が殺到し、60名の参加で実施された。

今年からは、耕作放棄地再生利用交付金によって再生された梅園でも収穫が始まり、参加者は鈴なりになった梅に感激しながら収穫した。梅組合による加工講習会も好評であった。

梅は収穫の手間が面積拡大の妨げになっており、梅狩り体験が放任園対策の一助になることも期待されている。

中濃農林事務所農業普及課普及活動状況

平成23年6月30日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（さといも）

円空さといもの生産状況

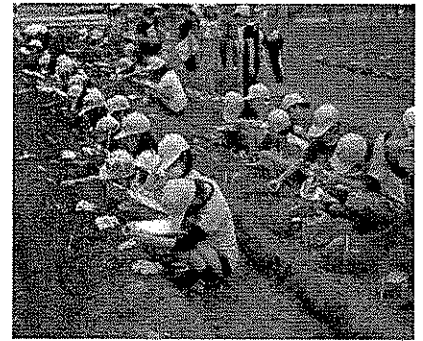
6月に入り降雨が続くなか、雨間を見つけてダツ搔き、1回目の追肥、土寄せ作業が行われている。今後は、2回目の追肥、土寄せ、コガネムシ防除について指導する。

・平成23年 中濃里芋生産組合

組合員数：43戸（H22：50戸）、作付面積：7.8ha（H22：9.4ha）

円空さといも生産振興会議

6月1日と14日に、円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの産地拡大を目指し、産地育成計画等について検討することとしており、課題解決に早くから取り組むため、半月に1回程度の割合で開催していく。



瀬尻小 さといも授業風景

瀬尻小 さといも授業（食農教育）

例年、農業普及課では、関市立瀬尻小3年生のさといもづくりについて支援しており、6月16日に、飛騨美濃特産名人の杉山さんとともに、追肥作業について指導を行った。

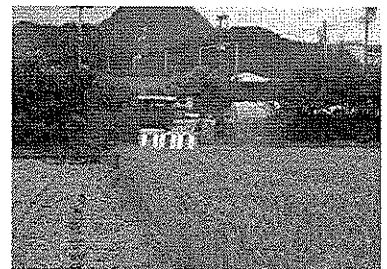
主要農作物の生産振興

■小麦

収穫がおおむね終了

管内の小麦は、前年に比べ10日ほど遅れ、6月21日から収穫が始まり、概ね6月25日で終了した。農業普及課では、収穫に先立ち、生産者に収穫適期及び収穫時の留意事項について情報提供し、高品質な麦生産を支援した。

また、6月13日に行われた県麦作共励会の県審査に先立ち、地区審査を実施するとともに、県審査にともなう関係機関及び生産者との調整を行った。



小麦の収穫風景

■なす

共同選果始まる

6月27日に、中濃夏秋茄子生産出荷組合の共同出荷が始まった。6月前半まで、低温・日照不足で推移したため、生育が遅れており、昨年の開始日（6月25日）と比べ、半分ほどの出荷量に留まっている。

7月1日には、目揃え会を開催し、市場関係者から量販店が求める商品について情報提供を受けるとともに、本年産から規格を変更していることもあり、規格を遵守した出荷について、意識統一を図ることとしている。



なすの共同選果

■いちご

いちごの育苗状況

苗の生育は、採苗数や葉齢から見ると、昨年並の進捗で推移している。ハダニ類、アブラムシ類の発生の多いほ場があったが、防除により発生は収まっている。

天気の悪い日が続いていること、蒸し暑くなってきたことから、炭そ病、うどんこ病の発生が懸念されるため、農業普及課では、病害の防除を中心に指導を行っている。

中濃地域いちご優良種苗需給会議

6月2日に、中濃地域いちご優良種苗需給協議会が開催された。いちご生産者の減少とともに、親苗の注文数が減ってきており、親苗生産者の経営も苦しくなる現状にあるなかで、今年度のいちご親苗の安定生産に向けた支援を行っていく。

■キク

直売所へ出荷開始

美濃市の特産であるキクの出荷が、6月下旬から始まった。出荷量がまだまだ少ないため、各組合員が道の駅美濃にわか茶屋等の直売所へ出荷・販売している。

岐阜生花市場への本格的な出荷は、7月下旬から始まり、12月まで続く見通しである。

近年、えそ病の被害が増えており、農業普及課では、病気を媒介するアザミウマ類の発生状況を調査し、適期防除を指導している。



キクの出荷調整作業

担い手の育成・確保

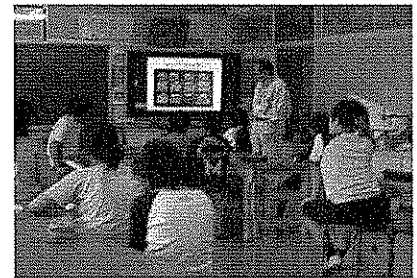
■担い手育成

田んぼの学校

6月7日、関市立武芸小学校5年生を対象に、農業普及課職員が講師を務め、米づくりについて出前授業を行った。

パワーポイントを用いながら、稲の起源から世界の米づくりまで45分の授業時間を目いっぱい説明した。農業に興味を持つ糸口になることが期待される。

また、6月17日には、児童が田植えした水田近くの水路で、生き物調査が実施された。



出前授業の様子

農業で夢再発見地域調査

県農業大学校主催の「農業で夢再発見研修」の地域調査が行われた。本研修は、県内で就農しようとする人を対象に、4ヵ月間の実習を通して農業の基礎知識を学ぶ制度であり、受講者が居住する地域の農業について学習するのが地域調査である。

農業普及課では、地域の農業について説明するとともに、農業との話し合いの場を設け、効果的に学習が進むように支援した。

今回の花き専攻研修生は、実際の栽培現場を見て勉強になったようで、今後花き経営に取り組むことが期待される。



菊生産ほ場での地域調査

地域の動き等

■武儀地区女性農業経営アドバイザー

幼稚園児がとうもろこし収穫

武儀地区女性農業経営アドバイザーでは、5年前から消費者を対象に、農業や加工を体験してもらうことを通じて、農業・農村の理解を深め、地産地消を進める取組を行っている。

今年は6月29日に、関市内幼稚園児に、とうもろこしを収穫してもらい、この地域の農業の話をした後、昔から地域に伝わる、とうもろこしのひげやナスを使ったお供えづくりを通じて、交流が行われた。



アドバイザーの話真剣に聞く

郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年6月30日現在

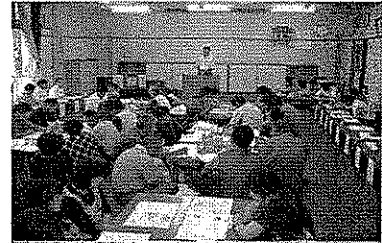
今月の重点活動

■だいこん

ひるがの高原だいこん出荷目揃え会

6月30日に高鷲町上野集会所でだいこん目揃え会を市場・生産・行政関係者約70名が参加して行われた。

本年度は58万本、約6億円の売り上げを見込んでいる。



■ふるさとのじまん農産物（夏秋いちご）

いちご選果場稼働開始

ひるがの高原いちご組合では、6月9日から共同選果場が稼働を開始した。今年は、越年作型（前年の収穫株利用）が取り入れられて、通常よりも早く出荷が可能となり、昨年よりも約1ヶ月早い稼働となった。今後は、春植え作型（慣行作型）の出荷が始まり、7月には本格的な出荷を迎える見込みである。



収穫を迎えた「すずあかね」

主要農作物の生産振興

■春まちにんじん

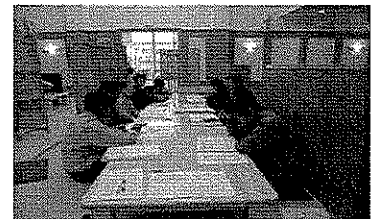
ひるがのファイト倶楽部総会

6月15日に高鷲地内の牧華で平成22年度ひるがのファイト倶楽部の総会が行われた。

にんじんジュースと飛騨りんごと組み合わせたキャロリングという新たなブランド商品を開発して6次産業に向けた取組を強化していくことになった。

また、秋にんじんと県内の柿やみかんを活用したミックスジュースの開発も検討していくことになった。

飛騨美濃の農産物を利用した商品開発を強化し、収益の高いビジネスモデルを組合では構築していく計画である。



■夏だいこん

保温資材の活用

ひるがの高原だいこんでは、農林水産省の補助事業で保温資材とかん水資材を導入した。

4～5月までは平年より寒い日が続いたが、保温資材の積極的な活用で生育遅延や障害は最小限に抑えることができた。



保温資材の活用

■トマト

地域別研修会

6月22日～30日にかけて、トマト部会の地域別研修会を順次実施した。総勢46名のトマト生産者のうち36名が参加した。農業普及課では、異常に早い梅雨入りを踏まえた追肥の方法と病害虫防除についての研修を実施した。GAPの取組について、6月の研修会でも15項目程度の自己点検を実施した。



トマト地域別研修会

■ 山菜

誰でも栽培・増殖できる山菜「ウコギ」の推進

郡上市の朝市直売所出荷者を対象にした栽培講習会が、6月13日（美並町）、15日（高鷲町）の2会場で開催され、農業普及課が講師となって農薬の安全使用や山菜「ウコギ」の栽培・増殖方法等について講義を行った。

特に「ウコギ」については、誰でも簡単に増殖・栽培が可能な山菜であるため、挿し木方法の実演を行い、各農家が自分で挿し木ができるよう100本程度の穂木を参加者に提供して栽培拡大を後押しした。



ウコギの挿し木実演

担い手の育成・確保

■ ほうれんそう

ほうれんそうの食育推進

奥美濃ほうれん草出荷組合では、組合独自の取組として、地元学校給食へ農産物を提供する地産地消を推進している。その取組の一環で、石徹白小学校を対象とした食農教育を支援した。

5月下旬に5、6年生が播種したほうれんそうを、6月28日に全児童で収穫体験を行った。自分たちで収穫した新鮮なほうれんそうは、その日の学校給食の献立として利用された。



ほうれんそう収穫体験

地域の動き等

■ 郡上市高鷲地域

獣害対策研修会

6月1日に高鷲地内の上野だいこん集荷場において郡上市役所と郡上農林事務所と合同で獣害対策研修会を行った。

郡上市農務水産課の担当から獣害に対する補助金の説明後、農業普及課職員が獣害フェンス等の資材について説明した。今後は、耐雪試験の再現性を見て補助事業を活用し、対策を具体化していく計画である。

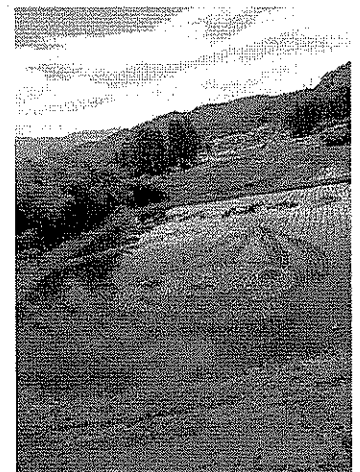
■ 郡上市白鳥町六ノ里

まもなく田んぼアート「ミナモ」と「アマゴ」が見ごろ！

「六ノ里棚田にじいろプロジェクト」は、4年前に地域の豊かな自然と山里の風景を将来へ守り育てたいという思いから、地域の人たちが一緒になって立ち上げたもので、棚田等の保全に取り組んでいる。

今年度、6月5日に開催したイベントで、参加者90名により田んぼアートの田植えを行った。今年の田んぼアートは、4色の稲を使って「ミナモ」と「アマゴ」を描いた。

7月中旬頃から見ごろを迎え、同時期7月23日（土）にはカンテラライトアップによって幻想的な光景が浮かび上がる予定である。



6月29日現在

可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年6月30日現在

今月の重点活動

■集落営農担い手発掘サポート事業

「室山集落を考える会」設立会議開催

白川町下佐見・室山集落において、6月6日に標記の設立会議が開催された。この会は、事業上の「集落営農組織化委員会」であり、集落農業者等関係者23名が出席した。白川町長の激励あいさつに続き、農産園芸課担当者から事業概要等について説明の後、規約・役員選任・事業計画等について協議した。今後、集落営農サポーターを中心として、地域における活動方向等を検討する。7月8日には岐阜大学教授の集落訪問・視察と第2回委員会を予定している。



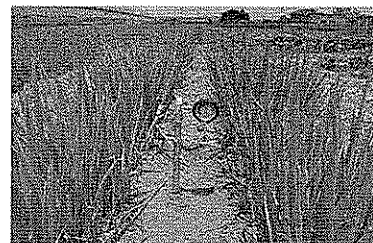
会の開催風景（室山公民館）

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

病害防除実証ほ設置と土壌水分測定

青ねぎ部会は、周年生産に向けての課題の一つである夏の軟腐病について、実証ほを設置し対策を検討している。農業普及課は、土壌が過湿になると当病害が発生しやすいことから、各地域の土壌水分を測定しその結果をもとに効果的な対策を進めている。



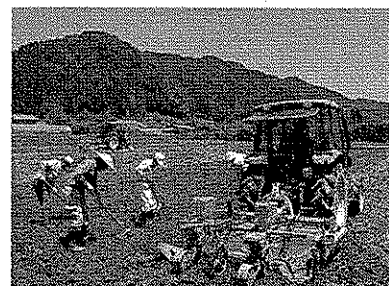
ネギほ場土壌水分測定

■大豆

集落営農組織によるは種作業（白川町）

白川町内の8つの集落営農組合は、梅雨入りが早まった影響を受け、当初計画よりやや遅れて、6月4～9日に集中的に大豆のは種作業を実施した（合計：約22.3ha）。

農業普及課は、安定生産に向け排水対策の徹底について、関係者に対して意識付けを行ってきた。今後は、関係機関と連携して、現行「タチナガハ」の「青立ち」回避し、安定生産のできる栽培管理の徹底と、品種切替を視野に入れた品種試験・加工適性等について検証を行う（試験品種：タチホマレ）。



は種・排水溝整備作業
（白河町：久室営農組合）

■梨

袋掛け作業終盤へ

梨の生育は新しょう伸長が若干遅れているものの、袋かけ作業が終盤を迎えており、幸水が完了し、豊水を実施している生産者が多い。病害虫は、赤星病の発生が多く、黒星病も全体的に多い（梅雨入りが早く、曇天が続いている影響）。害虫の発生は例年より若干遅れており（5～7日程度）、防除の適期を逃さないように注意を喚起している。



袋かけが進むナシ園

■茶

一番茶共販会終了

美濃白川茶の一番茶共販会が終了した。荒茶出荷量は前年より15%程少ない見込みである。なお、共販開催期間中、生産者や茶商から放射能分析に関する問い合わせが多くあった。

生育状況について

農業普及課では、昨年秋にチャノコカクモンハマキによる被害を受けた生産組合に対して、注意喚起を行っている。全域でカスミカメの被害が認められた。

今年3～4月に新改植したほ場は、苗の活着・生育ともに順調である。今後は、病害虫及び施肥管理の徹底を図る。

県茶品評会へ出品

農業普及課では、管内から県茶品評会へ出品される荒茶の摘採加工及び選別・再火支援を行った。県茶品評会へは、43点（白川町25点、東白川村10点、七宗町5点、八百津町3点）が出品され、上位入賞が期待されている。

いちご

平成23年度産に向け育苗管理が本格化

いちごは、育苗管理が本格化しており、ランナー受け盛期を迎えている。春先の低温の影響が心配されたが、苗受け進度は平年並となっている。今後、気温の上昇とともに病害虫の発生も予想されることから、農業普及課では、総合的な防除を呼びかけるとともに、6月末の苗受け完了を目指して、健苗育成に向けた支援を継続する。

担い手の育成・確保

集落営農組織

加治田営農組合（富加町）総会

6月18日に総会が開催された。同組合は、地域の農地を地域の農家が守ることを理念とし、地域農業の担い手として発展することを目的に、平成18年に設立され、本年で5年目を迎える。総会では、昨年度の実績及び今年度の計画について、組合員の承認が得られた。今後は、法人化を見据え、農業普及課としても引き続き支援を行う。

農業大学校

1学年の「校外学習」

6月17日に1学年（32名）の校外学習が実施され、管内の3人の指導農業士（夏秋トマト：東白川村、酪農：富加町、花き：坂祝町）及びトマト選果場を訪問して、経営状況等について学んだ。専攻コースが決定している学生は、積極的に質問を行うなど、農業経営への関心の高さを伺うことができた。農業普及課は、視察先関係者との事前調整や、当日の学習を支援した。



指導農業士から説明を聴く
学生（東白川村）

地域の動き等

美濃加茂市

「かも丸マーケット」の開催

6月8日に、アピタ美濃加茂店駐車場において、みのかもファーマーズ倶楽部が中心となり、軽トラックの荷台を販売台とした軽トラ市「かも丸マーケット」を開催した。同店の特別感謝デーの協賛行事として、会員が生産した農産物の他、市内の農業者等が製造した加工品等も販売され、テレビ局や新聞社等からの取材を受け、活動が広く紹介された。



軽トラ市（かも丸マーケット）

可児市

地元産大豆利用の特産品開発（(有)土利夢ファーム可児）

(有)土利夢ファーム可児は、可児市産大豆（フクユタカ）を使用した特産品として、豆菓子の製造・販売を検討している。平成23年夏の商品化に向け、6月16日には、価格設定やパッケージ・販売先等の参考とするため、JA女性部を対象として、豆菓子販売のPRも兼ねた試食会を開催し、豆菓子の値ごろ感や味の好み等について調査を行った。



試食会の様子

里芋焼酎「土田御前」販売開始

6月20日から可児商工会議所21世紀クラブ特産開発の会が開発した里芋焼酎「土田御前」の販売が始まった。原料の里芋は「さといも塾」が栽培した厳選品を使用した。販売本数は予約数量をあわせて800本である。道の駅「可児ッテ」にて購入可能である。



里芋焼酎「土田御前」

東濃農林事務所の普及活動状況

平成23年6月30日現在

今月の重点活動

瑞浪市農産物等直売所プレ直売開始

瑞浪市農産物等直売所のオープン1年前に出荷者の販売経験を積み重ねることを目的とするプレ直売が、6月16日JAとうと土岐支店駐車場でスタートした。

当日は、瑞浪市長はじめ、瑞浪市農産物等直売所出荷者協議会及び直売施設運営者である(株)みずなみアグリ関係者等により式典が開催され、出荷者48名から1,916点の野菜、花、卵、ソーセージ等の農畜産物が出荷された。このうち、304名の消費者が1,322点の農産物を購入し盛況であった。

プレ直売開始前には、関係者が出荷者の現状把握と栽培品目提案等を目的に巡回指導を行った。6月1日には、運営会社である(株)みずなみアグリ主催で、商品化講習会が開催され、57名が出席して、荷姿について学んだ。

プレ直売は、12月下旬までの毎週月・木曜日に開催される予定であり、農業普及課は、作付品目の提案や農薬の適正使用、生産履歴記帳の徹底等について支援を続けていく。



プレ直売の様子

主要農作物の生産振興

■水稲

(生育順調)

6月下旬に管内のすべての田植えが終了し、多くの水田では、分けつ前期～分けつ後期を迎えている。イネミズゾウムシの発生がやや多い傾向にあるが、全体として生育は順調である。

■いちご

(平成22年度産終了。株取大作戦決行)

「(有)甘原ええのお」は、今年度のいちご生産終了にあたり、日頃の支援に対する感謝の意を込めて、施設を顧客や地域住民に開放する「株取大作戦」を実施した。総勢200名近い消費者等が参加し、賑やかに今年度の生産を終了した。

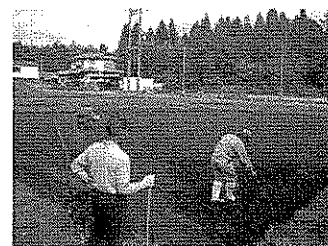
農業普及課では、今後は、平成23年度産に向けた育苗管理を支援していく。

担い手の育成・確保

■土岐市鶴里町

(集落営農サポーター始動)

集落営農担い手発掘サポート事業による、集落営農サポーターが就任した。さっそく地元農家らと耕作放棄地解消に向けた取組を行い、うち解けた様子であった。今後も集落の農業者及びサポーター両者の活動支援を継続する。



地域の動き等

■多治見市

(南姫中学校への農業体験学習支援)

南姫中学校1年生(3クラス 77名)を対象とした、大豆栽培の農業体験学習が、地元農業者の指導により、今年度も始まった。

6月6日には、認定農業者、市原照男氏の指導で、大豆種子(フクユタカ)を12a播種した。出芽も揃い順調に生育をしている。グループごとに管理することになっており、夏休みには除草作業が予定されている。

体験学習は、枝豆収穫、大豆収穫・脱穀、選別、豆腐づくりまで一貫した農業体験学習が計画されており、農業普及課では、市原氏とともに、折々の作業体験等を支援してゆく。

■ 瑞浪市

(営農連絡会議)

瑞浪市において実施されている、瑞浪東部地区ほ場整備事業の進捗状況及び担い手育成の方針等について意見交換を行い、情報共有するための営農連絡会議を6月23日に、瑞浪市、JAとうと及び農林事務所の関係者で開催した。

工区には、瑞浪市農産物等直売所施設建設用地もあり、周辺の農地を取り込んだ直売所の運営が計画されている。零細農家が多い地区での今後の営農体制や土地利用計画の実行に向けた詰めが、必要となっている。

■ 全域

(学校給食への農産物納入)

学校給食への地元農産物納入は、以前から取り組まれている瑞浪市に加え、土岐市、多治見市でも各市教育委員会との連携のもと、その仕組みが整った。

農業普及課では、今年度は、出荷組織運営について支援し、計画的な出荷に向けての栽培、技術の向上等支援を行ってゆく。

恵那農林事務所の普及活動状況

平成23年6月30日現在

今月の重点活動

夏秋トマト産地出荷量の平準化をめざして

当管内では、夏秋トマトが約20ha栽培されており、中京、関西市場に出荷されている。近年は、夏秋トマトの出荷期間である7月から11月のうち、8月までの前半の出荷量は多く、9月以降の後半は少ないという傾向が強くなり、産地として長期安定出荷に向けた対策が必要となっている。

農業普及課では、8月のピークを抑え、9月以降の出荷量を増やすための取組として、長段栽培での主枝更新と摘花房について栽培研修会等で説明や実演を行い、産地としての取組につながるよう支援を行っている。

前年度に夏秋トマト生産協議会の技術部会で主枝更新・摘花房技術の実証を行い、後半の樹勢や着果状況の改善効果を確認しており、今年度は各生産者にも1ハウス、もしくは1うね程度の試験的な取組を行い効果確認を行うよう誘導を図っている。



地区研修会で説明をする普及指導員

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（クリ）

クリ新規栽培者のためのチャレンジ塾はじまる！

東美濃栗振興協議会とJA東美濃の主催により「第1回クリ新規栽培チャレンジ塾」を6月12日に中山間農業研究所中津川支所で開催した。

中津川市、恵那市などから新たにクリの栽培を始めた生産者20名の出席があり、産地拡大に向けた東美濃クリ産地の取組などの室内講義と、クリ樹園地で初夏のクリ栽培管理等の講義を行った。

今年度は6月から翌年2月までの間に7回開催し、収穫・選果選別、剪定技術などのクリ栽培農家での研修や、年間5回以上の出席者に修了証の交付を行うなど新たな取組を予定している。

本塾は、東美濃クリ産地の拡大を図るため、関係機関が一丸となって進めているプロジェクト活動の一環で、今年で5年度目の開催。この取組を契機に新規栽培者70名程度が誕生し、30ha程度のクリが新植され、東美濃管内のクリ栽培面積は着実に増えつつある。



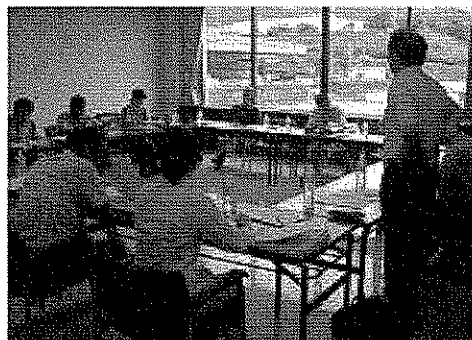
栽培管理等を説明する普及指導員

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

農家を交えて産地づくりを協議～ブロッコリー産地戦略会議を開催～

農業普及課では先月に続き、ブロッコリー産地戦略会議を6月13日に開催した。今回は栽培予定の農業者も参集し、栽培方法や作型、栽培上の課題等を聞き取り、産地づくりの推進について協議した。

農業普及課からは、栽培暦の提示や品種比較試験、栽培資材試験について、JA東美濃からは出荷販売方法に関する説明を行った。農業者からは、有望な品目であり、栽培体系や技術の確立に対する要望が寄せられた。



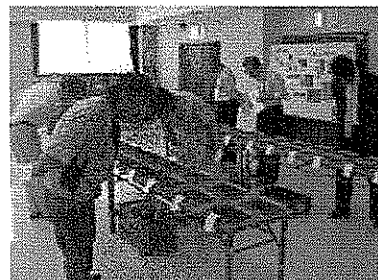
産地戦略会議での農家との意見交換

■ 黒大豆

生産物を見て、高品質栽培を推進～東美濃黒豆生産者協議会共励会&総会～

東美濃黒豆生産者協議会は6月6日、栽培共励会と総会を開催した。栽培共励会では、各農家が生産した黒豆約45点が出品され、JA東美濃担当者や農業普及課長らが審査を行い、高品質なものに農林事務所長賞を交付して表彰した。

総会終了後は栽培研修会が開催され、農業普及課からは栽培暦の提供や病害虫防除の指導を行った。一方、主要な販売先の業者からは、情勢報告があった。協議会では、冒頭の会長あいさつ「手間をかければかけただけ、その成果が返ってくる」との言葉を共有し、栽培に取り組むこととした。



熱心な審査を行った共励会

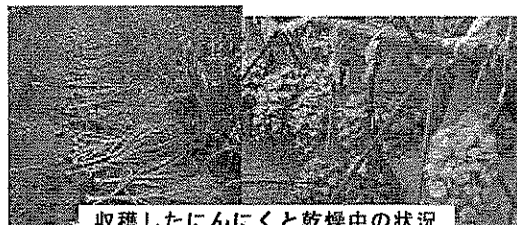
■ にんにく

にんにく収穫、販売に向け乾燥調整中

山岡町にんにく生産組合（組合員17名）の各生産ほ場で、6月15～16日に収穫を行った。昨年度多発した春腐病回避のため、畦づくり、植付け時期、越冬後の防除など基本事項を改善したことで、今期は昨年以上の収穫量となった。乾燥はJAの水稲育苗ハウスに遮光資材と送風機を組み合わせた簡易な施設を新たに作り、各自が収穫したにんにくを持ち込んで共同乾燥することとした。入庫から11日目である6月29日現在で既に目標の乾燥程度に達しつつある。

販売は、道の駅（おばあちゃん市）、JA直売、A-coop等で市場出荷に比べ有利販売するとともに、黒にんにく加工を行い、地域特産商品に育てていく計画である。

農業普及課では、引き続き地域の実情にあった生産・販売方法の確立に努めるとともに、地域を越えたにんにくの生産拡大を徐々にすすめる予定である。



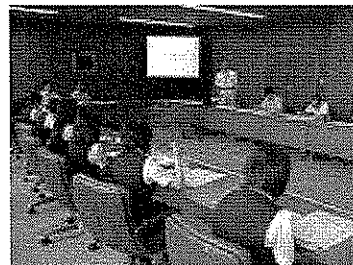
収穫したにんにくと乾燥中の状況

担い手の育成・確保

■ 農協営農指導員等支援研修

水稻の安定生産を目指して～農協営農経済窓口担当者水稻栽培研修会を開催～

6月22日、農業普及課はJA東美濃と連携し、各支店やグリーンセンターなどで営農経済を担当している職員を対象とした水稻栽培研修会を開催した。これは、窓口で農業者と接する職員の知識と技術を向上し、水稻の安定生産を図ろうとするものである。普及指導員が、水稻の栽培管理や病害虫防除について講義し、農協職員約40名が出席した。



JA窓口職員を対象にした研修の様相

地域の動き等

■ 恵那市全域

めざせ！恵那の新たなB級グルメ

「五平バーガー」を恵那市の新名物として広げようと、恵那市観光協会が6月29日に恵那文化センターで五平バーガー講習会を開催した。同協会の各支部から約50名が参集し、恵那農業高校生徒と農業普及課が講師を務め、五平バーガー作りの実習を行った。

五平バーガーは昨年、恵那農業高校の生徒が発案し、農業普及課の助言を得て商品化され、その後串原地区でも独自の具材を用いた同商品が誕生した。今後も地域色豊かな五平バーガーを各地に誕生することが期待されている。

7月30日に開催される恵那峡花火大会では、各支部からのご当地バーガーのお披露目も予定され、五平バーガーが恵那の新たなB級グルメとして全国区になる日も近い？



那農高の生徒

下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年6月30日現在

今月の重点活動

■新規需要米

関係機関合同生育調査巡回

下呂地域では、転作作物の一環として飼料米に取組んでいる。

今年の作付面積は約20ha、うち半分が専用品種「夢あおば」であるが、栽培農家の取組年数が少ないなどの理由で収量にバラつきがみられる。

このため、普及課とJAなどの関係機関で優良栽培農家のほ場3箇所をモデルほ場として選定し、6月29日に第1回目の生育状況調査を行なった。

農業普及課では、今後も調査を継続し、この調査結果を踏まえて全ての栽培農家が高い収量を得られるための栽培管理指導をしていく。



生育調査する普及課職員（下呂市野尻）

主要農作物の生産振興

■水稲

第1回龍の瞳戦略会議開催

6月23日に平成23年度第1回龍の瞳地域活性化戦略会議が下呂市内で開催された。

生産者側からは各生産組合の代表者が、販売者側からは（資）龍の瞳が出席し、農業普及課の担当者も交えて、平成22年産販売状況、平成23年度の計画等について協議した。

特に、県下15地区で現在の生産状況を確認するための巡回日程の確認、より高い品質のものをより多く生産できる栽培技術といった内容について検討した。

農業普及課では、適切な穂肥の時期、量などの情報を7月の穂肥前の時期に現地研修会を通じて各農家に伝えることで、より高い品質の龍の瞳をより多く販売できるよう推進していく。

農業普及課では、「龍の瞳」を今年度から3ヵ年の計画で実施する「活力ある新産地づくり支援事業」として位置づけ、全面的に取り組んでいく。



龍の瞳戦略会議（萩原町）

■飛驒トマト

下呂市の飛驒トマトのシーズン到来

トマトの出荷が、6月6日から益田夏秋トマト生産組合で、6月27日から下呂夏秋トマト生産組合で始まった。

農協の益田選果場が6月22日に試験運転を行い、27日から本格稼働に入った。

また、6月14日に益田夏秋トマト生産組合では、京都市場への視察研修を実施した。

京都市場では、夏秋トマトの担当者から販売情勢等についての情報提供を受け、生産組合からは今年度の取組状況と、現在の栽培状況について説明を行い、今年の夏秋トマトの販売について情報交換が行われました。

これらの情報を元により多くの高品質な夏秋トマトが出荷できるよう普及課としてもしっかり支援していきたい。



市場担当者からの説明（京都市）

■ひだ金山茶生産組合

■茶園更新研修会開催

6月17日にひだ金山茶生産組合では、茶の品質及び収穫量の向上を図るために栽培管理研修会を開催した。

普及課職員からは、6月以降の栽培管理について説明を行った。

茶園の樹の高さは、毎年8～10cmほど高くなるため、そのまま放置すると摘菜作業などが難しくなる。そこで、通常茶園の更新が必要となる。

今回、組合長のほ場において剪枝機を使って浅刈り・深刈り・中切りの3種類の深さでの更新作業の実習をし、そのほ場を展示ほとした。

7月以降も栽培研修会でその後の生育を見ながら組合員に茶園管理について説明を行っていく予定である。



担い手の育成・確保

■新規就農者

■ほうれんそうでの新規就農を目指して

去年、三重県からUターンした就農希望者が、国が定める「認定就農者」として認定されるよう、就農計画策定に係わる検討会を6月15日に下呂農林事務所で開催した。

参集者は、本人、JAの営農指導員、市役所の担当者その他、農業普及課からは、野菜担当、資金担当の2名であり、計5人であった。

まずは、新規就農希望者の将来の農業や人生設計の考え方を聞きながら、申請書の1つ1つの項目を全員で話し合いながら進めた。

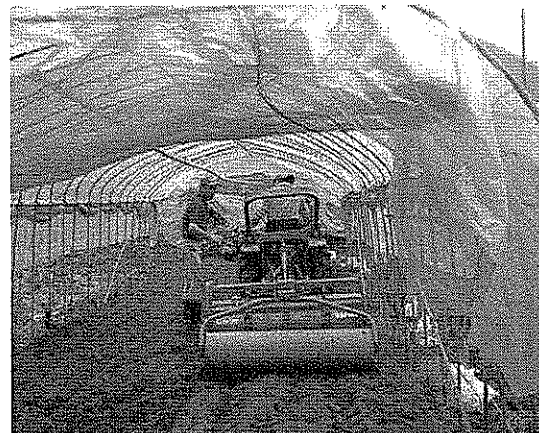
今日の検討会の結果をもとに、「就農計画認定申請書」を提出し、認定就農者の認定を目指す。

また、就農希望者は、下呂ほうれんそう生産組合の組合長のハウスを借りて、土壌消毒後の被覆資材を外す作業や播種準備作業などの栽培実習もはじめた。

農業普及課では、資金・栽培面等で引き続き支援していく。



土壌消毒被覆資材を撤去する新規就農希望者
(下呂市乗政)



鎮圧作業をする新規就農希望者
(下呂市乗政)

飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年6月30日

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援品目（飛騨黄金）

直挿し研修会を開催！

6月3日、高山市丹生川町にてJAひだ花卉出荷組合菊部会主催による「直挿し研修会」が開催され、約30名の生産者が参加した。

今年は新規栽培者が昨年より13名増え、苗供給量も6万本から10万本に増加した。更なる作付拡大を目指すには、苗の供給体制を整える必要があり、その手段の一つとして、個人育苗への誘導を図った。

参加者は農業普及課による直挿し方法の説明後、実際に作業を行い、技術習得に努めた。



直挿し研修会（丹生川町）

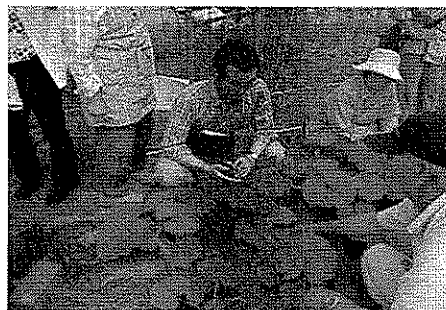
■活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

現地研修会を開催！

今年度の宿儺かぼちゃ研究会員は190名で前年比95%と減少したが、新たに8名が会員となった。

6月13日（丹生川町）、17日（久々野町）、20日（河合町）に宿儺かぼちゃ研究会主催の現地研修会が開催され、延べ70名が参加した。

新規栽培者を中心に定植後の管理（摘芯、整枝）について農業普及課から説明し、宿儺かぼちゃの大敵である梅雨を乗り切るための病害虫防除の徹底や、農薬の安全使用についても注意を呼び掛けた。



熱心に説明を聞く新規栽培者
（丹生川町）

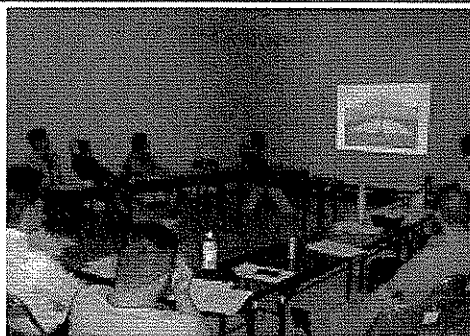
主要農作物の生産振興

■飛騨ほうれんそう

越冬ほうれんそう栽培検討会を開催！

6月6日、JAひだ高山営農センターにて農業普及課主催による「越冬ほうれんそう栽培検討会」を開催した。黄化葉対策として、今年は追肥の徹底を最重点に栽培研修会等で啓発、指導を行ったところ、黄化葉による事故品はほぼ発生しなかった。

当検討会では、緩効性肥料の施肥についても中山間農業研究所の試験や各地区の現地実証の結果を担当者が説明し、農協営農指導員と活発な意見交換を図ることで、来年度に向けての技術改善・取り組む方向についての意識統一を図ることができた。



越冬ほうれんそう栽培検討会
（高山市）

■飛騨トマト

梅雨対策研修会を開催！

6月7～9日の間、飛騨管内6地区（高山・丹生川・清見・高山南・吉城・高原）の現地圃場にて梅雨対策研修会を開催した。

今年の梅雨入りは5月27日と非常に早く、全体に樹勢も弱めの傾向にあることから、夏秋トマトにとって第一の課題である「梅雨をいかに乗り切るか」が重要な年となっている。



梅雨対策研修会
（高山南地区）

農業普及課では、摘果・灌水の継続による樹勢維持や灰色かび病等の徹底防除に関する情報に加え、現地での優良事例などもまとめた資料を作成し、梅雨時期の適切な管理について生産者へ訴えた。

■果樹

JAひだ果実出荷組合協議会「安全・安心研修会」の開催！

6月20日、高山市国府町、飛騨市古川町にてJAひだ果実出荷組合協議会主催による「安全・安心研修会」が開催された。この研修会は飛騨管内の果樹生産者が集まり、産地としてより安全安心な果物を生産し、消費者に提供していくことを目的に、毎年開催している。

本年度は、鳥獣被害対策と協議会として導入を進めているGAPについての研修を行った。鳥獣被害対策では、猟友会の山腰氏を講師に鳥獣の生態やワナ・防護柵設置のポイントについて学び、GAPでは、農業普及課からGAPの目的を説明した後、黒内果樹園の農薬保管庫や選果場を見学し、生産段階での安全対策について確認した。



農薬保管庫を見学
(古川町)

担い手の育成・確保

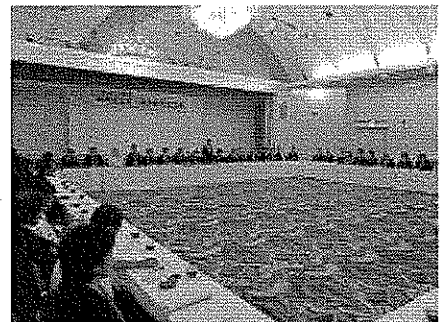
■新規就農者・指導農業士・青年農業士

新規就農者・関係機関交流会を開催！

6月21日、指導農業士・青年農業士飛騨支部及び農林事務所主催による「新規就農者・関係機関交流会をウエディングパーク高山フローラにて開催した。

昨年は口蹄疫感染予防のため開催が延期されたが、今年は平成22、23年度の新規就農者34名のうち20名が参加し、総勢約50名での交流会となった。

新規就農者の自己紹介の後に、農業士や関係機関から激励の言葉が送られ、その後の懇親会では2時間と短い時間であったが、新規就農者と農業士、関係機関職員の間で農業について語り合うことができた。



新規就農者・関係機関交流会
(高山市)

地域の動き等

■全域

飛騨地域朝市連合研修会を開催！

6月24日、飛騨総合庁舎にて飛騨地域朝市連合主催による「総会及び研修会」が開催され、生産者等22名が出席した。

研修会において農業普及課からは農薬散布に際しての具体的な注意事項を踏まえながら農薬安全使用について説明し、農業振興課からは米トレーサビリティ法における産地標記の仕方や一般消費者への産地伝達例、取引記録の作成・保存などを説明した。



飛騨地域朝市連合研修会
(高山市)

県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当
平成23年6月30日現在

1 専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

(1) 普及指導員等の資質向上

◆「普及指導員養成講座」「普及手法研修」を開催

6月1日、普及指導員資格未取得者4名を対象に第1回目の『普及指導員養成講座』を開催した。今回は資格試験審査課題（ウ）の解答のポイントを理解する上で、普及指導活動の原理の再確認とともに活動成果の取りまとめ方法の習得を図った。今後、3回の集合研修と個別指導を組み合わせ、農業政策の現状認識と課題の把握、専門項目に関する知識の習得を図る。

また、6月2日、普及経験が概ね1～3年の普及職員とそのトレーナーを対象に、『普及手法研修』を開催した。今回は日常の普及指導活動や普及手法を効果的に組み合わせた職場内研修（OJT）の進め方の習得を図った。今後、OJTを通じて普及指導員として求められる資質の向上を図る。



<普及手法研修の演習>
(花き・研修担当：井戸誠二)

◆「高度専門技術（スペシャリスト養成）研修」の実施

6月22、24日、県の重点品目である「夏秋トマト」と「夏ほうれんそう」を担当する普及指導員に対し第2回目の『高度専門技術（スペシャリスト養成）研修』を実施した。当日は、中山間農業研究所の担当者より、最新の試験成果だけでなく栽培管理や各種作業のポイントについての実習指導を組み合わせ、より実践的な技術習得を図った。今後は現地での調査研究手法の習得や先進地視察研修を予定しており、重点品目の振興計画達成に向けて資質の向上を図る。



(野菜担当：成田久夫)

◆「技術・経営強化（経営指導高度化）研修」を開催

6月28日、普及指導員を対象に第1回目の『技術・経営強化（経営指導高度化）研修』（全7回）を開催した。今回の研修では4名の普及指導員に対し、技術支援担当からの指導に加え、社会保険労務士を講師に招き「農業従事者の社会保障の概要」をテーマとした講義を行った。年金、保険等各種社会保障制度の説明後、普及指導員からの現状報告、課題抽出、そして具体的な経営改善提案にむけての対象経営体検討を行い、今後の普及指導員活動に生かすこととした。

(農業経営担当：遠山敬司)

(2) 行政及び関係機関との連携及び情報の提供

◆夏秋トマト生産販売会議、開催される

6月16、17日、高山市において県下の夏秋トマト関係者及び市場関係者が一堂に会し、生産販売会議が開催された。今年の課題は、21年の低温日照不足と22年の猛暑によって、2年続きの不作となった出荷量を以前の水準にまで回復させることである。

会議では、今後の岐阜県の夏秋トマト産地の将来を左右する年となるとの強い決意が示されるとともに、販売プロジェクトを中心とした市場・量販店とのパートナーシップ強化により、特に単価の低迷する前半の単価安定を図ることが確認された。

また、秋以降の夏秋トマトの味の良さを積極的にアピールし、差別化を図る点についても積極的な取組が始まる計画である。今年的气象背景から生育は1週間前後遅れている状況にあるが、

既に5月下旬より一部出荷が始まっており、7月上旬からは東濃地域より順次、出荷が本格化する予定である。
(野菜担当：成田久夫)

◆農業やる気発掘夜間ゼミで就農準備について情報提供

就農を目指す社会人などを対象とした就農支援研修会「農業やる気発掘夜間ゼミ」が、農業経営課主催で6月17日の岐阜会場を皮切りに本年も始まった。

第1回は、技術支援担当（担い手担当）からは県農業の特色や就農に必要な準備、支援制度等についての情報提供を、平成12年に新規就農した施設栽培農家からは体験発表を行った。会場に集まった20～60歳代、約80名の受講生は、一生懸命メモをとる等、熱心に聴講していた。

今後は、岐阜会場、可児会場の2ヶ所において、10月まで各8回の講座が開催され、栽培技術、土壌肥料、農業経営など、今後就農を考える上で最低限必要な知識についての講義が予定されている。今回の夜間ゼミ受講者の中から、一人でも多くの方が就農されること期待している。

(担い手担当：浅井義男)

2 その他

◆平成23年度県茶総合品評会荒茶審査について



<審査員による審査風景>

6月15日、美濃茶流通センターにおいて県茶総合品評会の荒茶審査が実施された。今年は101点の出品があり、外観、内質（水色、香気、滋味）ごとに採点され、総合点が高いものから順位づけられた。

審査員によると、春の低温の影響で生育の遅れが心配されたが、上位の茶は優劣つけがたい優れたものが多かったという。今年から特別賞は機械刈り、手摘みにわけて、7月の擬賞会議を経て

10月に県茶業振興大会にて表彰される。

(果樹担当：石川嘉奈子)

